

本草閣 × 本草画



ふるかはひでたか

小展示「本草画」 at 本草閣

二〇二三年二月一〇日(金)～二月二〇日(月)

午前十時～午後七時

人参

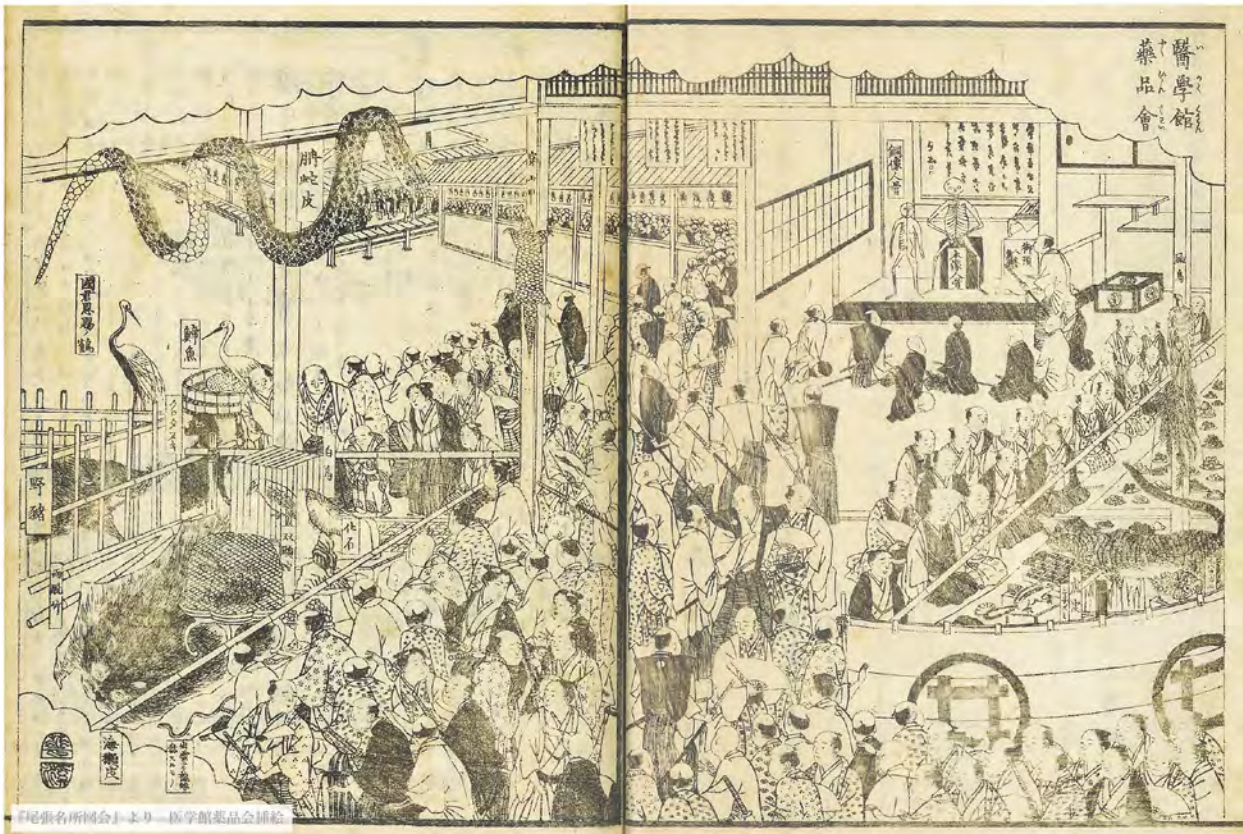
※十二日(日)、十六日(木)、十九日(日)、午前十時～午後五時

個展開催のみ。薬局業務営業は御座いません。

会場：本草閣薬局鶴舞本店

江戸後期、本草学の盛んであった名古屋城下。その伝統を引き継ぐ老舗薬局、本草閣の一面にて、このたび当時の博物画ともいえる本草画へのリスペクトを込めた小展示を催します。





『地張名所同会』より一橋学館薬品会講義

本草閣は、天保元年（1830）創業の和薬と漢方薬の老舗薬局です。このたび局内の一画をお借りして、江戸期の博物画ともいえる本草画にリスペクトを込めた小展示をさせて戴く運びとなりました。

本草学は当時、薬学とも博物学ともいえる学問。江戸後期の名古屋においては、逸早く西洋知識も取り入れつつ、薬草栽培や医療現場とも寄り添いながら独自に発展をとげていました。「本草」を名にし負う本草閣の創業は、そんな名古屋本草学の隆盛と期を一にしています。そして創業以来連綿と漢方提案を施す薬局として営み続けているのです。恐らくここは名古屋本草学発展の舞台のひとつにして、「文化遺産」のような場所といえるでしょう。

取材の中で僕は、上層階の奥にあった家伝の蔵書、版本の岩崎灌園『本草図譜』を見せて戴く機会を得ました。百巻ちかいそれらを次々にばらばら捲りながら、現在も利用されることの多い生薬などを紹介して頂くと、古典的な本草画といま利用される生薬を並べて描くプランが自ずと浮かんでくるのでした。

そしてずっと以前から、本草画に挑むことは「いつか」と胸に秘めていた夢だったことを思い出すと同時に突然、若いころ高木春山『本草図説』に憧れた遠い記憶が蘇って「はっ」とさせられたのです。

これまで土地のアイデンティティを探って歴史を掘り起こしてきた経緯も、日本人ならではのリアリズムを模索しながら描き続けてきた経歴も、そのどちらも、もしかしたら若い頃に受けた本草画の衝撃から始まっていたのかもしれない……と。

もしそうであるなら今回の小展示は、僕のアート作家としてのアイデンティティに挑む大切なチャレンジになるのかもしれません。ご高覧いただけましたら幸いに存じます。

ふるかはひでたか



※個展開催と同時に通常通り薬局業務営業もしておりますことご了承くださいませ。なお診療などの都合により、一部を御覧いただけない場合がございます。



1830年創業
和薬・漢方の

本草閣

名古屋市中区千代田5-21-17
TEL:052-241-3388 <https://www.honsoukaku.co.jp>

※作品をご希望の方はこちらまでお問い合わせください。

ART NAGOYA tel; 052-955-1790 / mail; info@artnagoya.jp
AIN SOPH DISPATCH tel; 052-433-1619 / mail; info@ainsophdispatch.com